目次

序

上編　名作選釈

(一) 詩経 …… 2

1 關雎 ……（周南）…… 6
2 桃夭 ……（周南）…… 9
3 漢廣 ……（召南）…… 10
4 摽有梅 ……（召南）…… 12
5 野有死麕 ……（召南）…… 14
6 靜女 ……（邶風）…… 15
7 凱風 ……（邶風）…… 16
8 伯兮 ……（衛風）…… 18
9 兔爰 ……（王風）…… 20
10 碩鼠 ……（魏風）…… 22
11 陟岵 ……（魏風）…… 25
12 鹿鳴 ……（小雅）…… 27

(二) 楚辞 …… 30

1 漁父 ……屈原 …… 33
2 懐沙 ……屈原 …… 38

(三) 漢の詩……48

1 大風歌……高祖……50
2 秋風辭……武帝……51
3 李延年歌……李延年……54
4 怨歌行……班婕妤……57
5 薤露歌……無名氏……59
6 蒿里局……無名氏……60
7 十五從軍征……無名氏……61
8 飲馬長城窟行……無名氏……63
9 孤兒行……無名氏……66
10 上山采蘼蕪……無名氏……70
11 陌上桑……無名氏……72
12 羽林郎……辛延年……78
13 焦仲卿妻……無名氏……83
14 古詩十九首……無名氏……117
一 行行重行行……117
二 青青河畔草……119
三 青青陵上柏……120
四 今日良宴會……122
五 西北有高樓……123
六 涉江采芙蓉……125
七 明月皎夜光……126
八 冉冉孤生竹……128
九 庭中有奇樹……129
十 迢迢牽牛星……130
十一 廻車駕言邁……131
十二 東城高且長……133
十三 驅車上東門……135
十四 去者日以疎……137
十五 生年不滿百……138
十六 凜凜歲云暮……140
十七 孟冬寒氣至……142
十八 客從遠方來……143
十九 明月何皎皎……145
15 留別妻……蘇武……146
16 別歌……李陵……148

(四) 魏・晉の詩……151

1 短歌行……(魏)曹操……154
2 七步詩……(魏)曹植……158
3 雜詩……曹植……160
4 歸園田居……(晉)陶淵明……162
一 少無適俗韻……162
二 野外罕人事……165
三 種豆南山下……166
四 久去山澤遊……168
5 飲酒……陶淵明……169
一 栖栖失羣鳥……169
二 結廬在人境……170
三 秋菊有佳色……173
四 清晨聞叩門……175
五 顏生稱爲仁……178
六 積善云有報……180
七 羲農去我久……182
6 責子……陶淵明……184
7 桃花源詩并記……陶淵明……187
8 形影神并序……陶淵明……195
一 形贈影……196
二 影答形……197
三 神釋……199
9 挽歌詩……陶淵明……204
一 有生必有死……204
二 在昔無酒飲……206
三 荒草何茫茫……207

—付録—……211

1 五柳先生伝……陶淵明……211
2 歸去來兮辭并序……陶淵明……217

下編 雜録

一 鴛鴦と民間説話……234

二　七夕の詩と説話……248
三　端午と屈原……257
四　桃源と桃花源記……262
五　陶淵明と無絃琴……279
索引……288

上編　名作選釈

(一) 詩経

詩経は中国最初の詩の総集で、中国の最も古い時代の詩を集めたものである。もちろん詩経以前にも古い詩のあったことは考えられる。例えば礼記に見える蜡辞（神農氏の時代の伊耆氏の作）、呉越春秋に見える彈歌（黄帝時代の孝子の作）、論衡に見える擊壤歌（堯帝時代の老人の作）、康衢謡（堯帝時代の児童の歌）など詩経以前の古い詩と言われ、古詩源を編した清の沈徳潜の如き、「康衢・擊壤、肇めて声詩を開く」と言って、両詩を声詩の鼻祖として最初に掲げているが、しかしこれらの詩が詩経以前の詩であるということには、疑問が持たれていて、今日信ずべきものとしては、詩経の詩が最も古いものとされている。

詩経はもとは単に詩と呼ばれ、詩と言えば詩経をさした。論語に「詩三百」などと言っているのがそれで、それが詩経と呼ばれるようになったのは宋以後のことである。

詩経は周初から春秋の中期に至る約五百年間（前一一〇〇年頃から前六〇〇年頃まで）の詩を集めていて、現存するものは三百五篇で、篇目だけの六篇を加えると三百十一篇となる。

詩経の詩が集められたのについては采詩ということが言われている。それは当時、為政者がその政治の参考にするため采詩の官を置いて各地の詩歌を採集したのによって作られたというものである。そういうことが言い出されたのは漢代で、後漢の班固の漢書芸文志に「古、采詩の官有り。王者の風俗を観て得失を知り、自ら考正する所以なり。孔子純ら周詩を取り、上は殷を采り、下は魯を取る。凡そ三百篇なり」と言っているのがそれであるが、采詩のことはその後、長く信奉せられて唐の白楽天の如き、その諷諭の詩、新楽府五十篇を作っては、それが采詩の精神を受けついだものであることを強調し、また采詩官と題する詩を作ってその精神の

鼓吹につとめている。しかし采詩の説は漢の武帝の時、詩歌を集めたことから、昔にもそういうことがあったであろうと推測したもので、ただ経典としての詩経を権威づけるためのものであったというのが通説である。

詩経の詩が三百五篇伝わっていることについては、孔子が多くの詩の中から風教に益するものだけを取ったという刪詩説がある。これは史記の孔子世家に

古は詩三千余篇、孔子に至るに及び、其の重なれるものを去り、礼義に施す可きものを取る。

とあるのに出ているが、唐宋以後、疑問がもたれて賛否両論があり、今日ではこの刪詩の説は信じられていない。そして結局、孔子の頃にはそれぐらいの詩が伝わっていたのであろうといわれ、孔子が関係したといっても、それは整理校訂したぐらいのことであろうというのが通説である。しかし詩経に確固たる位置を与えたのが孔子であったことは忘れられないことで、論語にはしばしば詩を引いて子弟教育の具にしたり、また詩の句を引いて論証したりということがなされているが、これは詩に大きな価値を与えたものであり、詩が経典の一に数えられるようになったのは正にこういうことによるものである。

三百五篇はその内容から風・雅・頌に分けられる。この中では雅・頌の詩が古くて西周の歌とされ、風は東遷以後、東周の詩を主としているとされている。

風は諸国の民謡を集めたもので、十五国風（周南・召南・邶・鄘・衛・王・鄭・斉・魏・唐・秦・陳・檜・曹・豳）、百六十篇からなり、概して言えば黄河流域の歌で、今の河南省・山東省から陝西省・山西省に及び、また湖北省の北部にまでも及んでいる。

風には正風と変風とがあり、周南・召南を正風というのに対し、十三国風を変風と言っている。正といい、変というのは、周初のものを正、後のものを変というとか、治世を楽しむものを正といい、乱世に憂苦するものを変というとか言われるが、なお周南・召南を最初に置いたのは、それが雅・頌と共に周の楽師によって奏されたのによると言われている。

雅は天子が諸侯を集めたり、公卿を饗したりする時に用いられた楽歌で、朝廷の楽師によって編成され、演